



列車で1時間半ほどの北イタリア・ブレッサノーネ



チロルのシンボル「聖アンナ記念柱」が聳える旧市街



広場でのイベント観覧用にマクシミリアン1世が造ったバルコニー「黄金の小屋根」



ゴシック様式の先駆けとなった聖ヤコブ寺院の大聖堂



ゆったりと寛げる旧市街のオープンテラス



山々を背景にイン川のほとりに広がる美しい街並み

日本からの長期滞在先としても注目 中世都市の面影を色濃く残す古都

オーストリア・チロル州の州都であるインスブルック。日本でも、東京五輪が開催された1964年の冬季五輪の舞台として記憶されている町ですが、古代ローマ帝国以来の歴史を持つヨーロッパ・アルプス最大の古都は、近年、日本からの長期滞在先としても旅行者の注目を集めています。

古代ローマ帝国からの長い歴史

雄大なアルプスの山々に囲まれ、標高574メートルに位置するインスブルックは、1964年と1976年の2度にわたって冬期五輪が開催されており、現在も、世界中から多くのウィンタースポーツ愛好家を集めています。同時に、古代ローマ帝国の時代からヨーロッパの東西南北を結ぶ交通の要衝としても重要な役割を果たしてきたことから、歴史と文化に彩られた中世都市の面影を色濃く残す古都としても奥深い魅力を持つ町です。

「イン川に架かる橋」という地名の通り、イン川の両岸にあった集落が12世紀に架けられた橋で結びついて発展し、15世紀にはハプスブルク帝国の黄金時代を築いた皇帝・マクシミリアン1世に愛され、政治経済芸術の中心として大いに栄えることになりました。

中心地の旧市街には、黄金の小屋根や宮

廷教会、大聖堂、ホーフブルク宮殿など中世の重要な建築が立ち並び、ゴシック様式を中心とする景観は見応えがあります。プレーナー峠を越えてつながるイタリアの影響も強く受け、ルネッサンス文化も根付いていることから、毎年夏には当時の古楽器を用いたコンサートも開かれています。

肩肘張らずに気安く過ごせる町

中央駅の前に広がる旧市街は全体が歩行者天国となっており、可愛らしいショップやレストランが軒を連ねています。

インスブルック市観光局日本事務所のモラス彩子代表は、「町の規模が歩くのにちょうどよく、治安面でも全く不安がありません」と説明。「ウィーンやパリのように肩肘を張らずに気安く過ごせることが、日本人の長期滞在先として注目される鍵となっています」と人気の要因を分析しています。

列車で1時間半ほど南下すれば、北イタリアのブレッサノーネに辿り着き、本場のパスタやラザニアなども楽しめます。

インスブルックに本拠を置くヴィルテン少年合唱団は、設立が13世紀まで遡る古い歴史を持ち、マクシミリアン1世が同じような聖歌隊を作りたいとウィーンへ連れていき、ウィーン少年合唱団の誕生につながりました。チロル州立劇場も、17世紀に建てられた宮廷オペラハウスが改築を重ねたもので、本格的な音楽を楽しめるのもインスブルックの魅力の一つとなっています。